

小学5～6年・総合学習、協働学習、探求学習、校内学習 日本文化紹介

オランダ・ロッテルダム日本人学校

I 前提

学校環境

自ら学ぶ力を育成するためのイエナ・プラン教育の考え方を取り入れることを全学的に推進している。

学校の情報通信環境の不安定さと ICT 教育機器、デジタル教材の不足が課題として挙げられていたが、ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業を通して、オンライン会議システム（Zoom）、学習プラットフォーム（G Suite for Education）、自動翻訳機（ポケットーク）、個別学習ソフト（インタラクティブスタディ）、電子黒板とプロジェクタ、デバイス（iPad、PC）などの整備を行った。

課題と目標

<課題> 「ICT を活用したアクティブ・ラーニング」を取り入れた授業方法

コロナ禍により学校でもソーシャルディスタンスの確保が必要になり、従来のような協働的な学習活動が難しくなっている。特にオンライン授業の中で生かせるアクティブ・ラーニングの手法について実証事業を進めていく必要がある。また、海外での校外学習、交流学习は「言葉の壁」に直面し、せっかく海外にいるのに日本ほど交流学习が深まらないことが課題であった。

<目標> 「言葉の壁」を超えたアクティブ・ラーニングの実践

オンライン授業により、「場所の壁」を超えることができたことが分かった。そこで、自動翻訳機や翻訳ソフト等の ICT 機器を活用すれば、「言葉の壁」を越えた、海外ならではのアクティブ・ラーニングの実践が可能であると考え実践した。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

- » 自動翻訳機（ポケットーク）
- » Microsoft PowerPoint

具体的な活用方法

本校はオランダ・ロッテルダムにある日本人学校であるため、オランダの公立小学校やインターナショナルスクールと、例年「日本文化紹介」という交流会を行っている。

<授業の狙い>

今年度は対面式での交流ができない状況になったため、ICT 機器を活用し、日本の文化を英語を使って紹介する動画の作成を目指した。

<学習内容>

日本文化を紹介するための言葉を考えよう。

<活動の流れ>

1. 日本文化を外国の人に紹介するためにはどのようなものを具体的に示せばよいかを考える。
 - » 配慮した点：日本文化としてイメージできるもの、自分が体験したことの中から紹介したいものを選ぶよう設定
2. 紹介したいものの説明文を考える。
 - » 児童の遊びを紹介するのであれば、いつどんな時にするものかなど、5W1H を取り入れ説明することを指導
3. 考えた文を英語に翻訳する。
 - » 説明する順番を意識させ、1つずつ短い文になるように工夫させた
 - » 自動翻訳機を活用
4. 英語を聞いてさらに改善する。
 - » さらに伝わりやすい表現になるように、ペアになって実際に説明しながら検証する



活動の様子（写真）

「誰かのために」伝えるという目的があり、その上で児童達自身が言葉を選び、遂行する過程が何より大切だと、実践の中で気づくことができた。

3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

自動翻訳機を活用したことで、単に日本語を英語に変換する以外にも、児童たちは翻訳された文を聴き、さらに伝わるように自分たちで言葉を工夫しながら適切な言葉を選ぶことができた。自動翻訳機を使いながら、児童たちは何度も話す練習をしたり「オランダ語ならどうなのか？」と違う言語での表現を確かめたり、多様な活用方法を実践していた。

児童生徒、教師、保護者の反応

<児童の感想>

- » 「言葉を選ぶことは難しかった」
- » 「新しい英語を使った表現ができて良かった」
- » 「言葉の幅が広がった」
- » 「自分が思う以上に簡単な英語になって驚いた」